



7月24日〜25日 生根神社・玉出西公園

だいがく祭り

逆ること平安時代、難波の地一帯で全く雨が降らず、農作物が凶作となりました。そこで、住吉の大海神社の社前にて人々が御神燈と鈴を付け

たものを建て雨乞いの祈願をしたところ、たちまち大雨が降ったので、人々は喜びこれに台を付けて担ぎ、太鼓を打ち鳴らし練り歩いたとされるのが由来です。このたてものを「だいがく」と呼んでます。太鼓を鳴らすのは、神様への御礼と、また雨を降らせてくださいと神様にアピールするためです。もとより、この「だ

がく」はたくさんあったのですが、空襲などにより戦前のものは現在は一基のみで、大阪府指定有形民俗文化財として大切に保存されています。

今年はABCラジオでも取り上げられ、南海電車にはポスターが貼られ、ピラを配った結果、知名度がグンと上がりました。さらにはアナウンサーの方が担ぎ手として参加されました。

なお、だいがくには男性が担ぐものだけでなく、女性も担ぐだいがくがあります！
(高村陽)



大阪府指定有形民俗文化財 付 玉出だいがく祭礼図
塩田平太郎氏が明治40年頃のだいがく祭りの様子を描いたもの。

だいがくの組み立てを担う 瀬戸 肇さん



●15歳で大工を始め、18歳からだいがくの組み立てに参加しもう60年。毎回「本番に間に合うんかいな」。それは夜寝れないくらいのものでしたよ。平成15年の「だいがく」作り替えの際には、西吉野まで「だいがく」の芯棒になる20mを超える木を求めて現地へ見に行き、それを橋本の製材所までヘリコプターで運び、半年ほど川で虫を殺すために浸けて、そこから深夜に玉出に運び入れたこともありました。その木を昔ながらの製法で作りました。

米澤 克則さん



●生根神社の祭りには幼稚園時から小学校6年生までくら太鼓の引き子でした。中学生になってからはだいがく祭りに参加し、今に至ります。歴史がある祭りに参加できることはとても光栄ですし、益々発展していくべき祭りだと思っております。これからも色々な方に生根神社のことを少しでも知ってもらえるように努力をし続けたいと思います。

池原 佳子さん



●祭りの準備ほか、たくさんの方が、和をとり1つになって活動されてることを改めて実感致しました。伝統ある生根神社の祭りの奥深さを知り感動しました。

萩原 樹さん



●初めてのだいがく祭りで緊張しましたがとても楽しく夏の良い思い出になりました！来年も担ぎたいです！

玉神会会長 国中 隆さん



●玉神会には平成15年に入り、先輩から活動を受け継ぎました。玉神会は神社の祭りの準備を始めとして、行事を支える役どころで、だいがく祭りでは何日間にもわたり、だいがくの組み立てなどの奉仕をしています。いわば縁の下の力持的存在です。後継者の育成も課題となっていますが、準備をすることにより、だいがくへの愛着も出てきますので、活動に参加してほしいと思っています。

女だいがく代表

今岡 麻理絵さん



●伝統のある祭りに、携わることができ光栄に思います！今年のだいがく祭りは大盛り上がりだった、最高だった！という声をたくさん聞きました！この先ずっとだいがく祭りを西成区だけでなく、他の地域の方々にも世界中にももっと知ってもらい、そして参加もしていただき、だいがく祭りをもっともっと盛り上げていきたいです！

生根神社宮司 吉見 友伸さん

●今年の夏祭りも、多くの方々のお力添えをいただきながら無事に御齋行させていただきましたありがとうございます。夏祭り神事の中でも、特に、だいがく行事は盛大に行われ多くの方々の活力になったのではないのでしょうか。この伝統行事がいつまでも続けられることをお願いします。



だいがく音頭保存会

谷川 太一さん



●だいがく祭りの時、公園でだいがく音頭のお囃子をしています。音頭は昭和44年から、はじめは境内で唄い出されました。音頭はお囃子でスタートし、お囃子で進行していくので、お囃子が一番大事だと思っています。私は声も大きくなりやすかったので、お囃子を担当することになりました。

昭和48年の第2回「ふるさとの心日本の祭」にも出演するなど、だいがく音頭を通じてよい思い出がたくさんあり、後の人にも記録を伝えたいと思っています。